













## キーの説明

キー	名称	キーの機能
	電源	約1秒押し続けると電源がONまたはOFFします。
	可視光 キー	赤色レーザー ON 2 Hz - 約2秒押し続けると可視光源が点滅します。 ON CW - 約4秒押し続けると可視光源が点灯します。 OFF - 約1秒押し続けると発光停止します。
	メニュー キー	メインメニューを開きます。
	タブ切替 キー	メニュータブとビュータブの切り替えを行います。
	カーソル キー	カーソルキーの機能は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ホーム画面と設定画面とメインメニュー:メニューをナビゲートし、設定パラメータを変更します。</li> <li>波形表示画面:カーソルを動かします。</li> <li>ズーム調整画面:水平・垂直のズームを調整します。</li> <li>LSA調整画面:カーソルを動かし、ズームを調整します。</li> </ul>
 or 	選択キー	選択キーの機能は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>メインメニュー:測定モード、測定結果、設定、作業、最新結果を開きます。</li> <li>波形表示画面: [A] と[B] のカーソルを切り替えます。</li> </ul>
	戻るキー	どのメニューまたはエディタ・サブメニューが示されているかによりませんが、現在のモードのホームページに戻る為に、1回以上押して下さい。
	測定キー	測定開始/停止を行います。
	保存キー	現在表示されている測定結果を保存します。
	バックラ イトキー	明るさのレベルを設定します。(M700, C850)
	ファンクシ ョンキー	各ファンクションキー上部に表示されている機能を選択する時に使用します。

# 測定モード: 表示画面

## 測定設定画面

バッテリーアイコン - ACアダプタ/充電器が接続

メインメニュータブ

戻るタブ

測定設定タブ

メニューオプションが次のような3つの点“...”となっていたときは、サブメニューページがあります。

⏪/⏩ キーを押して、追加情報を表示させて下さい。

テストポート	シングルモード
ファイバ種類...	ユーザー3
近端ダミーファイバ	初期値[150m]
終端ダミーファイバ	初期値[150m]
波長	1310/1550 nm
設定	手動
範囲	4 km
パルス、1310 nm	30 ns
パルス、1550 nm	30 ns
時間、1310 nm	10
時間、1550 nm	10
フィルター	On

## 波形画面

バッテリーアイコン - 満充電

波形画面タブ

ページヘッダ

未保存 ...RIS-LYONS-SV 48700

1550\* dB

30 ns 4 km 500 m, 10 dB/div

A: 4.8 m 方法 Two Points (B-A)

B: 1,496.9 m 損失 6.13 dB

B-A: 1494.1 m

波長 調整 表示

↑ファンクションキーラベル↑

## 測定設定タブ



以下を表示するためにタブを押して下さい。

- 1 ホーム - OTDR設定を表示、ファイバとケーブルIDパラメータを変更。
- 2 設定 - OTDR測定設定を規定。
- 3 イベント - イベント設定とパス/失敗設定を規定。
- 4 件名設定 - 件名、終端とオペレータのパラメータを規定。

## 波形表示タブ



以下の測定データを表示するためにタブを押して下さい。

- 1 波形 - OTDR波形、測定設定、A/Bカーソルデータ、損失方法、損失、反射。
- 2 イベント - OTDR波形、イベント場所、タイプ、反射、損失、イベントパス/失敗(オンの場合)
- 3 測定結果概要 - OTDR波形、ORL (SM)、リンク長、損失、リンクパス/失敗 (オンの場合)
- 4 件名情報 - 現在表示されている波形の設定パラメータ。

# 測定設定: 全自動測定

コア設定 - 全自動モード設定は全てのOTDR測定モードに共通で、コア設定と呼ぶことにします。

パラメータ	定義
テストポート	このパラメータは、マルチモードまたはシングルモードレーザー OTDR波形を生成するために使用します。
ファイバ種類	このパラメータは、GIRと後方散乱係数を決定するファイバの種類を設定するために使用します。
近端ダミーファイバ (Launchコード)	OTDRが最初の接続の損失を測定できるように十分な長さである測定中リンクの近端にOTDRを接続するために使用されるテストケーブル。
遠端ダミーファイバ (Tailコード)	OTDRが最後の接続の損失を測定できるように十分な長さである測定中リンクの遠端を末端させるためのテストケーブル。

## キー

記号	名称	機能
▲▼	上/下カーソルキー	パラメータのリストを上下にナビゲート
◀▶	右/左カーソルキー	利用可能なオプションを表示
⬅ or ➡	選択キー	サブメニューまたは編集を表示
↶	戻るキー	前のメニューに戻る

測定しているファイバの種類に合わせて、シングルモードまたはマルチモードを選択します。

[ユーザ]に設定した場合は、GIR及び後方散乱パラメータを定義するには、サブメニューを表示。

[ユーザ]に設定した場合、長さのパラメータを設定します。

⬅/➡を押して、編集を表示し、使用されている近端ダミーファイバの長さを設定します。

[ユーザ]に設定した場合、長さのパラメータを設定します。

⬅/➡を押して、編集を表示し、使用されている遠端ダミーファイバの長さを設定します。

## 測定設定：詳細測定

コア設定（全自動設定）に加えて、詳細測定モードは、波長、距離レンジ、パルス幅、平均化とフィルターパラメータを設定することができます。

### 設定 - 自動

テストポート	シングルモード
ファイバ種類...	初期値
近端ダミーファイバ	Noyes(1km)
終端ダミーファイバ	なし [0m]
波長	1310/1550 nm
設定	自動

[自動]に設定すると、OTDRはそれぞれの測定の距離レンジ、パルス幅、時間、フィルターを設定します。

◀▶キーで次の測定のために、短波長または複数波長を選択します。

### 設定 - Auto Once

テストポート	シングルモード
ファイバ種類...	初期値
近端ダミーファイバ	Noyes(1km)
終端ダミーファイバ	なし [0m]
波長	1310 nm
設定	自動 1回

[Auto Once]に設定すると、OTDRは最初の測定のために、距離レンジ、パルス幅、時間とフィルターを設定します。測定後、ユーザーが次のテストのための任意の設定を変更することがあるマニュアルモードではOTDRホームページに戻ります。

### 設定 - 手動

◀▶キーで、短波長または複数波長を選択します。

[手動]に設定すると、距離レンジ、パルス幅、時間、フィルタを設定する必要があります。

◀▶キーで目的の値やオプションを表示します。

テストポート	シングルモード
ファイバ種類...	初期値
近端ダミーファイバ	初期値 [150m]
終端ダミーファイバ	初期値 [150m]
波長	1310/1550 nm
設定	手動
範囲	4 km
パルス、1310 nm	30 ns
パルス、1550 nm	30 ns
時間、1310 nm	10
時間、1550 nm	10
フィルター	On

## 測定設定: リアルタイム測定

コア設定に加え、リアルタイムモードは波長、距離レンジ、パルス幅、フィルターのパラメータを設定します。

全自動モードコア設定を参照して下さい。(P3)

◀▶ キーで波長を選択して下さい。

◀▶ キーで目的の値とオプションを表示させて下さい。

テストポート	シングルモード
ファイバ種類...	初期値
近端ダミーファイバ	初期値 [150m]
終端ダミーファイバ	なし [0m]
波長	1310 nm
範囲	4 km
パルス、1310 nm	100 ns

## OTDRイベント設定

詳細モード: [自動] が初期設定です。◀▶ キーで、[自動] か [オフ] のオプションを切り替えます。

◀▶ キーで、[規定値] か [ユーザ] オプションを選択します。  
[ユーザ]に設定した場合は、⌂ キーで編集サブメニューを表示させます。しきい値のパラメータを定義できます。

シングルモード	
損失...	.10 dB
反射...	-65.0 dB
終端...	3.0 dB

◀▶ キーで [規定値] と [ユーザ] オプションを選択します。  
[ユーザ]に設定した場合は、イベントとリンクパス/失敗と限界しきい値を定義するためのサブメニューを表示します。

イベント	自動
イベント閾値...	初期値
正常/閾値...	ユーザー-1

シングルモード	
Loss, 反射...	.75 dB
Loss, 無反射...	.30 dB
反射...	-35.0 dB
Event Marginal 閾値	On
Loss, 反射...	.50 dB
反射...	-5.0 dB
Link Pass 閾値	On
損失、1310 nm...	0.00 dB
損失、1550 nm...	0.00 dB
ORL、1310 nm...	25.0 dB
ORL、1550 nm...	25.0 dB
Link Marginal 閾値	Off

## 設定: 新規件名作成

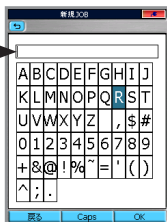
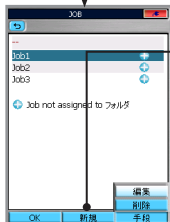
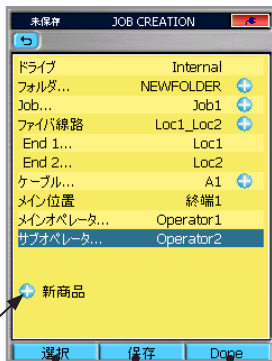
新規件名ユーティリティモードは、新しい件名を作成するために使用します。(ファイルの構造を設定し、測定場所にあるファイバを定義します。:ドライブ、フォルダ、件名、ルート[終了位置]、ケーブル、テスト機器の場所、オペレータ)を作成するために使用可能です。新規件名ユーティリティメニューは、新規件名のタッチスクリーンのアイコンをタップするか、[新規件名]のソフトキーを押してメインメニューからアクセスします。

アクティブな件名が件名階層に存在しない場合は、件名の作成画面は、アクティブな件名の設定を表示します。新しいフォルダ、件名、ルート、ケーブル、およびオペレータを作成するために設定を変更することができます。

アクティブな件名が件名階層に存在しない場合は、件名の作成画面は"—"に設定されて表示されます。ドライブを識別し、新しいフォルダ、件名、ルート、ケーブル、およびオペレータを作成することができます。

- ◆ キーを使って、使用可能なパラメータ/オプションのリストを上下に移動させます。目的のパラメータをハイライトさせます。
- ◀▶ キーを使って、使用可能なパラメータ/オプション (該当する場合) をスクロールできます。
- ハイライトされたパラメータサブ画面にアクセスするために、[選択] ソフトキーを押して、該当のパラメータの名前の一つを選択あるいは新しい名前を作成することができます。
- 新規作成するには: パラメータサブ画面から、[新規] ソフトキーを押し、新規フォルダ/件名/ルート/ケーブルの名前を作成するためのテキスト編集を表示させます。

注: 新規に作成された項目は、“+”で表示されます。

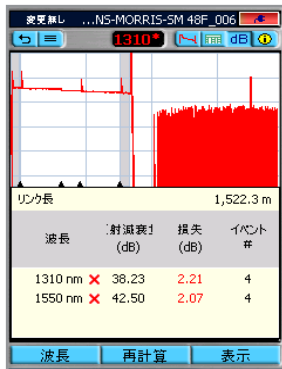
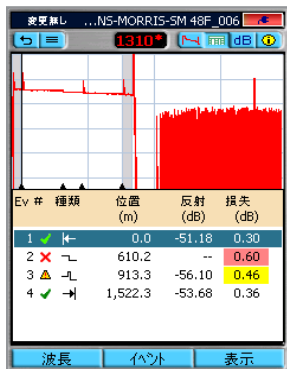


[保存]を押すと、新しく作成された件名の設定を保存できます。必要に応じて、さらに件名、ルート、ケーブルを作成することができます。

押すと[完了] “アクティブ” 件名として新規作成された件名を設定。測定モードを選択するユーザのメインメニューを開きます。

## イベントテーブルと 測定結果概要

イベントテーブルと測定結果概要は一緒に作成されます。  
全自動に設定、または詳細とイベントを自動に設定します。



使用可能なパス/失敗のしきい値が示されます

## ファイル保存




### 保存

測定が完了したら、設定の過程で作成された名前で、現在のフォルダにファイルを保存するために保存キーを押します。



### 別名で保存

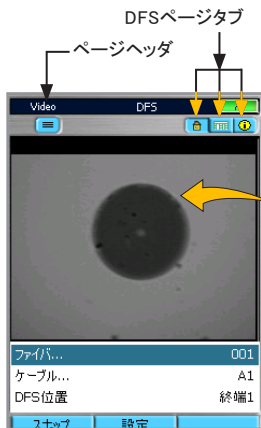
測定完了後のフォルダ、件名の名前、他のパラメータを変更するには、件名インフォメーションタブ  で、変更します。

よろしければ、保存キーを押します。変更は、現在の測定のみ適用されます。

ドライブ...	Internal
フォルダ...	--
Job...	SNHU
ファイバ線路...	LYONS_Loc2
ケーブル...	SM 48F
<b>OTDR位置</b>	<b>終端1</b>
ファイバ...	013
OTDRオペレータ...	MARK
サブオペレータ...	SUZY
GIR, 1550 nm	1.4682
後方散乱, 1550 nm	-82.0 dB

# DFS測定モード: 画面の特長

## ライブモード



きれいなコネクタ

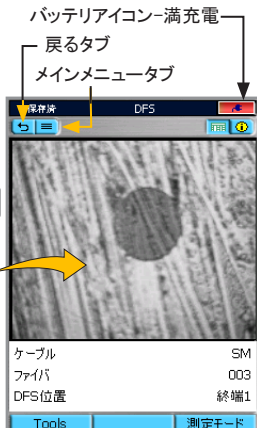
汚いコネクタ

表示されている端面の画像を撮影するために押します。

明るさと鮮明さを調整するために押します。

◆ キーを使って、目的のツールオプションを選択します。  
選択したら、終了するには[ツール]を押します。  
[ズームイン/アウト]を選択すると、各画面はタッチでズームイン/アウトできます。  
[パン]を選択すると、画面をタッチして、目的の位置に画面を移動できます。

## 検査モード



バッテリーアイコン-満充電

戻るタブ

メインメニュータブ



DFSツールメニューを表示させるために押します。

ライブDFS 検査モードに切り替えるために押します。





# DFS測定モード: 画面の特長

## DFS検査測定モードタブとページ



1 2 3

タブを押すか、◀▶ キーを使って、目的のDFSページを表示させ、次の手順を行います。

- 1 ホームページ - 表示された光ファイバの端面画像を撮影できるライブDFS検査モードです。
- 2 結果ページ - 撮影された端面画像を表示します。
- 3 件名設定 - ファイバIDインフォメーションを表示し、件名、終端、オペレータパラメータを定義できます。

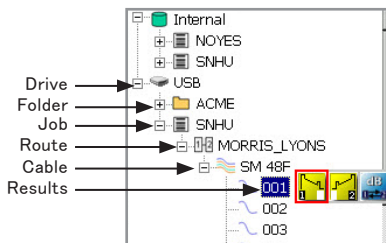
## レビューのために保存結果を開く

メインメニューから、[結果]



ソフトキーを押して、結果マネージャにアクセスします。

テスト結果は、ケーブルフォルダに格納されたファイルとして保存されます。ケーブルフォルダは、ルート、件名、ドライブフォルダで構成されています。



OTDR測定結果は、SORファイルフォーマットに保存され、



アイコンの

"ファイルツリー"で表示されます。

OPMと測定損失値は、(M700とC850のみ!)は .ATDファイルフォーマットに保存され、



アイコンの

"ファイルツリー"で表示されます。

DFSファイバ端面画像は、JPGファイルフォーマットで保存され、



アイコンの

"ファイルツリー"で表示されます。

# レビューのために保存結果を開く

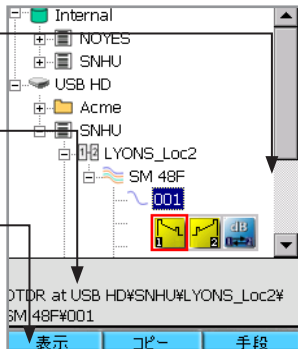
この例では、OTDRとOPM測定結果/ファイルがあります。

このフィールドは、選択されたファイルのパスと名前を表示します。

選択された測定結果を開くために押します。

[空白] = フォルダ、件名、ルート  
[開く] = ケーブル  
[表示] = 結果

ツールメニューを表示するために押します



- ◆ キーで、フォルダ/ファイルのリストを選択します。
- ◀▶ キーで、選択されたドライブ/フォルダ/件名/ルート/ケーブルを拡大/縮小します。
- 保存されている測定結果を開くには、目的のファイルに移動し、[開く]を押して下さい。
- 件名、ファイル、フォルダをコピー、作成、削除するにはツールメニューを使用します。

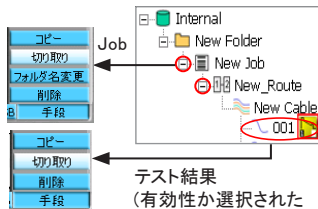
ツールメニューを使って測定結果をコピー、削除

測定結果をコピー:

- 目的の件名、フォルダを選択します。
- [ツール]を押します。
- [ツール]メニューから、[USBにコピー]を選択します。

測定結果を削除:

- 目的の測定結果を選択します。
- [ツール]を押します。
- [ツール]メニューから、[削除]を選択します。



テスト結果  
(有効性が選択された結果によります。)